

## 申込事業計画説明及び質疑応答まとめ

## (1) 地下鉄を利用した逸品探し街歩き体験ゲーム

## 【プレゼン概要】

若林区の魅力発信、まちの賑わいづくりを目的に地下鉄沿線を利用して、地元の名物・名所を巡る市民参加型ウォークラリーイベントを開催する。地下鉄沿線をすごろくに見立て、サイコロを振り、出目通りの駅で下車して出題された目的の飲食店などが記載された地図を見ながら、飲食店を探し出し、その店の逸品を食し、再びサイコロを振り、オリエンテーリングの要領で、次なる目的地を目指す体験型ゲームを実施する。

## 【質疑概要】

Q 今年度は荒井駅から荒浜までのコースはやらないのか。

A コロナ禍でなければ、今年度荒浜までのコースをやりたいと考えていた。回数を重ねた後に来年度の開催を考えている。

Q お店を見つけたときにもらえるポイントを平均算出から累積算出へ改めたとあるが、これは何故なのか。

A お店の見つけやすさに応じて、もらえるポイントを変えており、その合計ポイントを回ったお店の件数で割ったものが平均方式である。累計方式はその合計ポイントがそのまま点数となる。変更した理由については、回ったお店の数で割ってしまうと、回ったお店が少ないチームと多いチームで点数に差が生じにくく、お店を多く回るメリットがなくなってしまうためである。

**意見** ゲーム性の部分で、点数に応じて厳密に順位をつけているのであれば、順位ごとにももらえる景品もしっかりしたものを用意したほうが、参加者の満足度も上がると思うので、参加者の景品について検討していただきたい。

Q 広報について、募集チラシを配布する学校を昨年度より増やす見込みはあるのか。

A 参加者の約8割が小学校経由での参加者と割合が高いことがあり、30～40人を参加者の定員とすると、1回の開催でチラシを配布する小学校は4～5校程度が妥当だと考えている。それ以上の数の学校にチラシを配布にしまうと、参加者の定員を超えてしまい対応しきれない恐れがある。

Q 参加者へのアンケートの内容について、イベントの満足度のほかに、「若林区のことをもっと知りたいですか」や「若林区の魅力で感じたことはありますか」など若林区の興味・関心の部分を盛り込んでいく考えはあるか。また、巡る逸品を食、歴史、体験と異なるテーマに設定するとあるが、回ごとに逸品のテーマを変えるのか、それとも一つの回に複数のテーマを盛り込むのかを教えてください。

A アンケートについてはご指摘のとおり、今後は若林区の魅力・関心の部分も盛り込んでいきたい。逸品のテーマについては、まだ構想段階ではあるが、食を中心とした混合型で考えている。ただ歴史については、興味・関心が高い分野でもあるので、参加者の声を聞きながら、歴史にテーマを絞ったものなども検討していきたいと考えている。

【プレゼン概要】

荒町の魅力を広く発信するプロジェクトとして、地域情報紙「荒町さんぽ」、地域紹介動画コンテンツ、荒町オリジナルソングを制作する。については、新規メンバーを募集し、「荒町さんぽ」第3号を発行する。については、荒町の春夏秋冬や祭りなど年間を通じて取りまとめていき1本の紹介動画を制作する。については、あらゆる世代と一緒に歌える荒町ソングを新たに制作し、CDを広く無料配布し、地域の方々と一緒に合唱を行う。

【質疑概要】

Q 荒町ソングプロジェクトについて、歌詞を一般公募するなどの考えはあるか。

A 今回制作する初めての曲については、荒町に思いがある方達での制作を考えている。今回の曲を発信することで、第2弾、第3弾と繋がっていくものになればいいと思っており、その中で一般公募については考えていきたい。

**意見** 申込が今回で3回目ということもあり、素晴らしい企画だと思う。年代を超えた繋がりが荒町にはあり、それを体現するのが今回の歌のプロジェクトということで、荒町の軸には商店街の存在があり、商店街の年齢やジャンルを超えた方々の思いが荒町ソングプロジェクトに込められているのかなと思うと、成果が楽しみである。頑張っていたきたい。

Q 収支予算の中で、市の助成金50万円を含めて総額68万円の支出となっているが、このような素晴らしい企画を継続して実施していくにあたって、4年目以降はどのような計画を考えているか。

A 荒町商店街からこの先も一緒に活動していきたいと話がでていいる。荒町商店街のWEBサイトがリニューアルされ、新サイトを荒町エリア発信隊のメンバーがサポートしている。また、荒町サポーターズという70名程度のメンバーが参加している会費制の団体があり、連携していく話をサポーターズのほうからいただいている。それによって、資金的に余裕が出てくる面がある。今年の1月に荒町エリア発信隊として入会した。

Q オリジナルソングのCDを500枚制作するとのこと販売は考えているか。

A 考えていない。荒町ソングプロジェクトについては、まずは聴いて、覚えてから始まると思うので市民センターなど色々なところに配って、広げていくつもりである。以前行ったリモート合唱の方では450人以上が参加しているので、500枚のCDもすぐなくなると考えている。

【プレゼン概要】

貞山運河を観光資源として有効活用し、人を呼びこみ、地域の魅力向上を図ることを目的に、貞山運河で曳舟体験及び歴史・芸術に触れあう文化祭（演劇教室・ポエムツアー）を開催する。

【質疑概要】

- Q 収支予算書の中で、馬舟を屋形船に改修するとあるが、屋形船への改修理由について教えていただきたい。また、文化祭の実施について、予算を10万円程度見込まれているが、予算や内容的な面で、文化祭の言葉からイメージするとスケールがかなり小さいように感じるので、文化祭について具体的なイメージを教えていただきたい。
- A 曳舟イベントで使用する際に、参加者に興味・関心をもってもらうことを目的に改修を行う。馬舟に木材を組み上げて、屋形船のように屋根を付けることを考えている。文化祭については、演劇教室・ポエムツアーを合わせて文化祭としている。演劇などの要素を体験したいとの声があったので、演劇教室を中心に、文化祭の名に値するような企画をこれから練り上げていきたい。
- Q 曳舟は何名が乗ることができるのか。
- A 船頭含めて6名乗ることができる。
- Q 屋形船にしてしまうと景色が見えなくなるのではないか。
- A 屋形船といっても、イメージ的には屋根をかけて雨宿りができるような改修を考えているので、景色が見えなくなることはないと思っている。
- Q 曳航（井土地区にある馬舟を小型動力船で引っ張り荒浜地区まで運ぶこと）について、昨年度の舟運プロジェクトの際は、瓦礫などがあり曳航できなかった経緯があったと思うが、今回はどのように考えているか。
- A 曳航については、瓦礫があるので当然慣れている方でないといけないので、新浜で漁業をやっている方がいて、お願いすることも検討している。また今回の規模の舟であれば瓦礫を避けながら曳航できると考えている。
- Q 井土から荒浜まで馬舟を曳航する所要時間はどれほどを見込んでいるのか。またイベントの集合解散の場所はどこを想定しているか。
- A 井土から荒浜までは小型漁船で引っ張っていくことを考えており、1時間程度だと思う。集合解散は海岸公園センターハウスを考えている。
- Q 安全対策について教えていただきたい。
- A 舟に乗り込む際は、注意する必要があるため、舟に乗る際の棧橋に手すりを設置して、安全に乗り込めるようにしたい。また、舟に乗る際は、ライフジャケットを着用していただく。子供用、大人用のライフジャケットを用意しており、イベントに使用する十分な数は確保している。

【プレゼン概要】

連坊の魅力を発信し、来訪者を増やしていくことを目的に、連坊の歴史資産を活用した街あるき及び動画コンテンツの制作を行う。街あるきについては、1回あたり参加者8名で年4回の街歩きを実施する。連坊の商店や歴史など普段気づかない場所や名所を紹介する。動画発信については、連坊商興会青年部と一般募集で集まった方で制作を行い、連坊の魅力を広く発信していく。

【質疑概要】

Q 街あるきはガイドを含めて10名とコロナ禍を配慮してのことだと思うが、もう少し参加人数を増やすことは考えているか。また、広報について、申込書の目的欄に、地元に住んでいても、地元の魅力を知らない人に魅力を伝えること、連坊以外の地域の人にも魅力を知ってもらおうとあるが、チラシの配り方についてはこういった工夫を考えているか。

A 連坊の方に対しては、回覧板にチラシを入れて周知していく。連坊以外の方へは、チラシを地下鉄駅に掲示、Facebook等で周知していく。併せてこれまで色々なイベントなどで関わってきた方達にも案内をする予定である。参加人数については、ガイド含めて10名は少ないと感じているが、コロナ禍での開催を考えるとそのくらいの人数が安心だと判断した。多数の応募があった際には、回数を増やすなどして検討していきたい。

意見 広報については、小学校や市民センターなども活用することで、周知が進むと思うので検討していただきたい。また、参加人数についても1回あたり15名~20名程度であれば、密を避けて開催できると思うので併せて検討いただきたい。

Q 動画アドバイザーのIlli氏はこういった方なのか。また、動画については、連坊商興会青年部と有志で募集した方とで制作するとあるが、一般募集の仕方はどのように考えているか。また荒町エリア発信隊でも同様に地域の魅力を発信していく活動をしているので、地域の巻き込み方など参考になるかと思うが。

A 荒町エリア発信隊は参考にさせていただきたいと考えていた。連坊ではこれまで、学生がお祭りのボランティアなど、地域活動に参加したとしても、1回限りでその後に繋がることが少なかった。一方荒町では、荒町サポーターズという団体があり、おまつりを手伝ってくれた方などを、サポーターズに勧誘して繋がりを作り、地域コミュニティを形成している。今回事業を進めていくにあたっては、連坊でも、荒町を参考にしたコミュニティの形成を考えている。Illi氏については、昨年、荒町エリア発信隊の動画制作講座の際にお世話になり、講師として色々とおアドバイスをいただいたので、本事業ではIlli氏をお願いすることにした。

意見 荒町の活動を近くで見てこられたということで、アドバイスをもらい、いいところは取り入れていていただきたい。

Q 街あるきのガイドを連坊商興会青年部の方が担うとなっているが、今までガイドの経験はあるのか。ないのであれば、他の街あるきに参加して研修を受けるなどを考えているか。

A 今まで街あるきのガイドは何度かやっている。また他の街あるきに参加して、ガイドを勉強したいと考えている。

- Q 熱意・想いが伝わってくる説明だった。連坊商興会青年部の他のメンバーの方も同様の熱意をお持ちなのか。
- A 熱量はそれぞれである。街あるきを土曜日に開催すると、商興会の中には参加できない方もいるので、商興会ではない青年部の方や都合がつく人で実施していく。メンバー全員が街あるきをやりたい気持ちは一緒である。

【プレゼン概要】

方言が失われていく現代において、「仙台弁」の歴史的保存と継承を目的に、仙台弁の語り部の方に協力をいただき、民話をDVDに収録し、後世に広く伝えていく。収録したDVDは小学校や児童館、地域のサロンに配布して、仙台弁の表現の豊かさ・温かみを感じていただく。

【質疑概要】

Q 本事業で取り上げる仙台弁の題材は、地域にゆかりのある昔ばなしなど、地域に関わりのあるものなのか。

A 先ほど見ていただいた民話は、若林区の地域を題材にしたお話だが、本事業で取り上げる題材は、必ずしも若林区にちなんだものではない。若林区に関連するところかというと、今回の語り部が若林区の方であること、収録したDVDの配布先が区内の小学校や児童館であるところである。

Q 地域での暮らしの話と言葉はセットなので、方言を伝えるなら、動画を製作していく過程の中で、地域の方に地域の話聞いてまとめていき、地域の魅力を方言で発信していくとよいと思うが、そのようなことは考えているか。

A ご指摘のとおりで、地域には色々な神社があり、それにまつわる話など、地域のことを昔から知っている方に話をいただいて、残していくような活動に繋がっていきたいと思っている。現状では取材ができそうな方の情報がないが、この事業での活動をきっかけに、そういった情報の収集に努めたい。

**意見** 先ほどご説明いただいた街あるきに仙台弁の要素を取り入れてみてはいかがか。事業目的でもある仙台弁の魅力を発信していくことにも繋がると思う。ガイドを仙台弁で行ったり、街あるきマップの地図に仙台弁を入れてみたりはどうか。どちらの事業においてもプラスになるのではないか。

A ガイドが仙台弁を習得しなくてはならないが、おもしろい取り組みだと思うので検討してみたい。

Q 先ほどの説明で見せていただいた語り部の方は、ゆっくりでわかりやすい仙台弁だったが、撮影する語り部の方は何名いて、これは仙台弁であるというジャッジはどのように考えているのか。また動画にする際には、字幕などの編集についてどのように考えているのか。

A 説明の語り部の方は涌谷出身の方で、民話もたくさんっており、話す人によっても民話を変えることができ、安定した語りをお願いできるので1年目はこの方をお願いしようと考えている。また仙台弁のジャッジについては、地域や話す人によって変わってくると思うが、それはそれぞれの個性だと考えている。動画にする際は、字幕を入れるなどして、見やすいものにする。

Q 事業計画の概要にて、仙台弁の保存と後継者へのアプローチとあるが、説明いただいた内容から後継者を細分化すると、語り手の育成、仙台弁を保存していく側の育成、地域へ発信していく発信者としての育成と分かれていくものと考えているが、具体的に後継者へのアプローチはどのように考えているか。

A 後継者へのアプローチは課題だと考えており、一緒に事業を取り組んでいく方達と動画

を撮影し発信していく過程の中で、仙台弁に興味を持っていただき、そこから語り部として、仙台弁の保存・発信する側として後継者が広がっていくことを期待している。